

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスここいく東員教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動を活かした社会性・協調性の育成	日々のプログラムに小集団活動を計画的に取り入れ、順番を守る・役割を担う・他者の意見を聞く等の社会的スキルを実践的に学ぶ機会を設けている。活動後には振り返りを行い、成功体験を言語化している。	活動ごとに育成目標を明文化し、個別支援計画と連動させることで、支援の一貫性と再現性を高める。
2	安定した支援環境とチームでの情報共有体制	朝礼等で児童の状況共有を徹底し、支援方法の統一を図っている。環境設定(席配置・活動スペース等)を調整し、落ち着いて過ごせる環境づくりを行っている。	ケースを会議を定期化し、支援の質を高めるための専門的視点を取り入れる。
3	保護者との連携を重視した支援体制	送迎時や連絡帳を活用し、日々の様子を丁寧に共有している。家庭の困りごとに寄り添い、情報交換を行っている。	定期的な面談や説明機会を設け、支援の狙いと成長の見通しを具体的に伝える。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援意図の可視化不足	活動は充実しているが、「なぜこの活動を行うのか」という目的説明が十分ではない。	活動計画書に育成目標を明記し、月次通信等で共有する。掲示物や配布資料を工夫する。
2	専門支援の体系整理の必要性	社会性支援やコミュニケーション支援は日常的に行っているが、体系的整理が不足している。	SST等の年間計画を作成し、段階的な支援モデルを整備する。外部研修への参加を推進する。
3	支援成果の客観的評価の不足	成長は実感されているが、評価指標として整理されていない。	評価項目を設定し、定期的に数値・記録として振り返る。個別支援計画との連動を強化する。